

授業科目名 (英語表記)	財政学 (Public Finance)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	齊藤 仁		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	① 10月9日(土) 9:00~12:00	③ 10月30日(土) 9:00~12:00	
	② 10月16日(土) 9:00~12:00	④ 11月6日(土) 9:00~12:00	
<p>【授業の概要・ねらい】</p> <p>この授業では政府の経済活動の諸領域を扱う財政学について、理論や歴史的経緯、および現状を概観し、その学術的成果を踏まえつつ主に日本の財政を考察していく。具体的には、個別の財政問題(教育や社会保障、財政赤字など)について、トピックごとにダイレクトに学んでいく。その際には、政府にはどのような役割が理論的に求められるのか、また今の財政制度についての歴史的経緯はどのようなものなのかといった視点から考察を行っていく。</p> <p>【授業計画】</p> <p>①政府の役割と財政：財政のいま (10月9日実施予定)</p> <p>①政府の役割と財政：財政の歴史 (10月9日実施予定)</p> <p>②政府の役割と財政：財政の基礎理論 (10月16日実施予定)</p> <p>②財政赤字とマクロ経済：日本の財政赤字 (10月16日実施予定)</p> <p>③財政赤字とマクロ経済：財政赤字のマクロ経済理論 (10月30日実施予定)</p> <p>③財政赤字とマクロ経済：財政の持続可能性 (10月30日実施予定)</p> <p>④受講生による発表① (11月6日実施予定)</p> <p>④受講生による発表② (11月6日実施予定)</p> <p>※以上の授業計画はあくまでも予定であって、変更することもありうる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本的な財政制度や理論を理解した上で、それをもとに現在の財政政策の現状や問題点、改善点等について自らの見解をもつことができるようになる。</p> <p>【成績評価の方法・基準】</p> <p>大まかな財政の仕組みについては担当者が講義形式で説明を行うが、各個別の歳出や歳入部分に関しては、受講者の中で分担を決め指定したテキストの該当部分の輪読を行う。講義参加者に対しては少なくとも1回は発表することが求められる。「輪読の発表」とクラスディスカッションへの貢献などにより総合的に評価する。</p> <p>【教科書】</p> <p>赤井伸郎編「実践財政学―基礎・理論・政策を学ぶ―」有斐閣</p> <p>【参考書・参考文献】</p> <p>小塩隆士「コア・テキスト 財政学 (第2版)」新世社、廣光 俊昭編著「図説 日本の財政(令和2年度版)」財経詳報社</p> <p>【履修上の注意・メッセージ】</p> <p>現在どのようなことが起こっているのかを知る必要もあるので、日常的に新聞(ニュース)に目を通す習慣を身につけてほしい。</p> <p>【授業時間外学修についての指示】</p> <p>各講義終了後に講義内容について授業資料や教科書などを用いて復習を行うことが求められる。そのほか、各自の興味や疑問点に応じて、参考書や関連省庁のホームページを調べて勉強をすること、さらに輪読で発表するに当たっては、教科書の該当部分の精読以外にも関連する文献などを読むなど、かなりの自主的な学習をすることが必要である。</p> <p>【履修を推奨する関連科目】</p> <p>地方財政論、社会政策、公益事業論</p>			